

KAWAMOTO ENVIRONMENTAL ACTIVITY
川本工業の環境活動
2016



環境方針

川本工業は、地球環境保全を企業活動の社会的責務の一つとして位置づけ、
環境に配慮した事業活動を的確な対応により推進する。

1. 各部門は、環境負荷低減のために、適正な環境目的及び目標を設定し、
環境マネジメントプログラムを策定して環境保全活動を実施する。
 - ① 環境に配慮した設計に努める。
 - ② 資源の効率的利用、建設副産物の発生抑制及び工事周辺環境の保全に
配慮した施工計画・施工管理に努める。
 - ③ 省資源、省エネルギー、リサイクル及び廃棄物発生の抑制を推進する
日常の業務管理、運営に努める。
2. 環境に関連する法規制、並びに同意可能な業界の規範及び自主的に定める
基準などを明確にし、遵守する。
3. 全社員に環境方針の周知を図るとともに、環境に関する教育を実施し、
環境保全活動の理解、意識の向上に努める。また当社の事業に係わる
協力業者に環境方針の周知を図る。
4. この環境方針を公表するとともに、地域社会とのコミュニケーションを
図り、地域の環境保全に取り組む。

以上を継続的に推進し、また改善するため、「環境マネジメントシステム」を
確立・運用し、定期的に見直しを実施する。

省エネルギー提案 導入事例：川本工業本社ビル



当社「川本工業株式会社」は、空調・衛生・エネルギー設備等の設計・施工管理を行う総合設備会社です。横浜市中区にある本社ビルは1975年に建設されました。2014年には耐震改修工事と空調設備の改修工事を行いました。今年度は全館の照明と変圧器の一部を更新します。

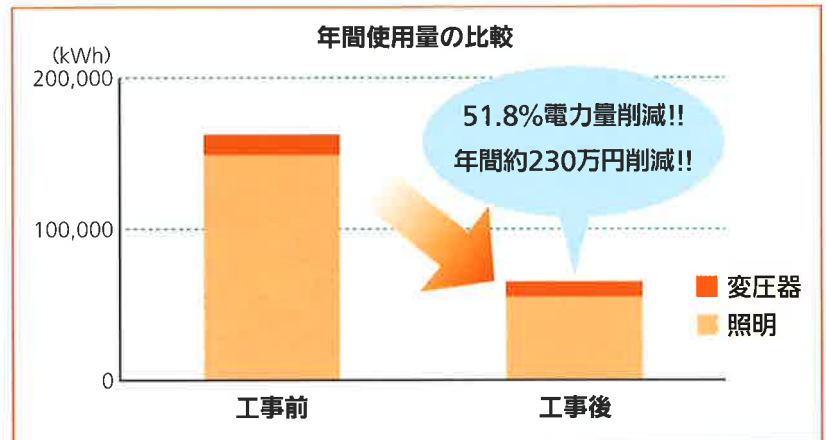
工事場所：神奈川県横浜市中区寿町
 構 造：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階 地下2階
 延床面積 9,226m²
 更新設備：照明（蛍光灯、ダウンライト 1,517台）
 変圧器 3台（200,150,30 KVA）

省エネルギー効果（見込）：
 事業後の電力消費量削減率は51.8%

工事概要

基準階のベース照明は40W 蛍光灯ですが、一部で白熱電球のダウンライトを使用していました。今後、ランプや安定器の部品供給が困難になることが予想されます。また省エネルギー化を図る意味でも照明のLED化について、昨年より計画していました。変圧器の更新と合わせて経済産業省の平成27年度の補助金※に応募し、採択が決められました。

※平成27年度補正予算 中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金



1階 EV ホール前照明・工事前



1階 EV ホール前照明・工事後



2階事務室照明・工事前



2階事務室照明・工事後



変圧器 (200KVA)・工事前



変圧器 (200KVA)・工事後

省エネルギー提案 導入事例：神津精機株式会社

「神津精機株式会社」様は、実験研究用や産業用の精密機械装置の設計製造販売を行っている会社です。小惑星探査機「はやぶさ」の収納容器から回収した微粒子の分析に、神津精機株式会社様のステージが採用されるなど世界が認めた技術を人類社会の進歩発展のために活かしています。



工事場所：神奈川県川崎市麻生区

構造：鉄骨造 地上4階
延床面積 2,653m²

更新設備：ガスヒートポンプエアコン（GHP）9系統

省エネルギー効果（見込）：

事業後の空調部分のガス消費量削減率は、45%

工事概要

既存空調は導入から14年が経過し、更新検討時期となっていました。経済産業省の平成27年度予算の補助金^{*}が出ていたタイミングだったので高効率空調機設備への更新と補助金の活用を提案し、ご採用いただきました。

更新工事を行うことにより、空調分のガス消費量を45%削減できる見込です。（既存空調設備と導入空調設備の比較）

※平成27年度補正予算 中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金



GHP 室外機・工事前



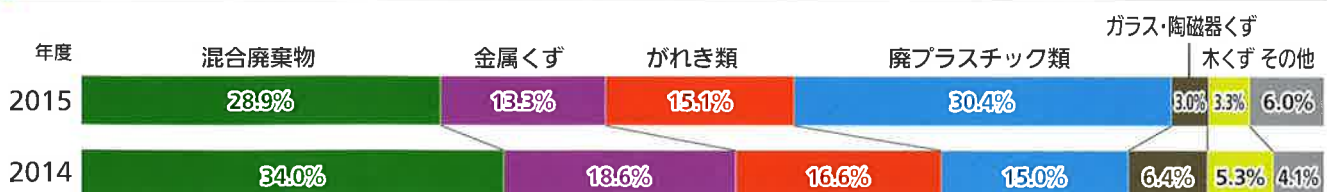
GHP 室外機・工事後

施工現場における環境活動の紹介 2015年度

当社施工現場では以下の環境活動に取り組んでいます。実施状況を把握するため、サンプリングを行い結果の報告をしています。

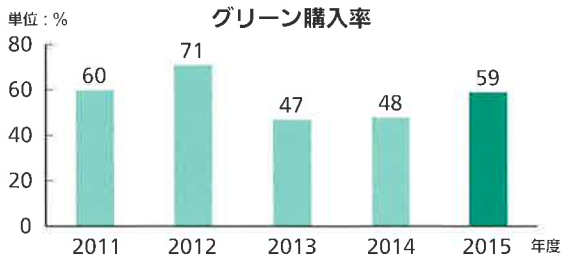
施工現場における廃棄物の分別率	81.1%	資源の効率的利用を図る為、産業廃棄物の分別を推進しています。
資源の効率的利用につながるVE案 [*]	199件	適正品質を確保すると共に、資源の効率的利用に繋がる提案を行なうことを推進しています。 <small>(※VE (Value Engineering) とは…品質や信頼性という機能的価値を低下させずに、製品製造コストの低減を行う方法。)</small>
プレ加工	73,742m	あらかじめ工場で切断・加工した配管部材を、施工場所で組立てることにより、建設副産物の発生抑制を推進しています。
工事周辺環境への配慮	66.3%	アイドリングストップ、計画的な資材搬入、周辺清掃、作業時間/日の厳守、低騒音機器の採用など周辺環境に配慮した活動を推進しています。
フロン回収の徹底	4,427kg	空調機・冷凍機の廃棄の際に発生するフロンガスを確実に回収し、適切に処理することを徹底しています。

施工現場における廃棄物の種類別排出割合



継続的活動の報告

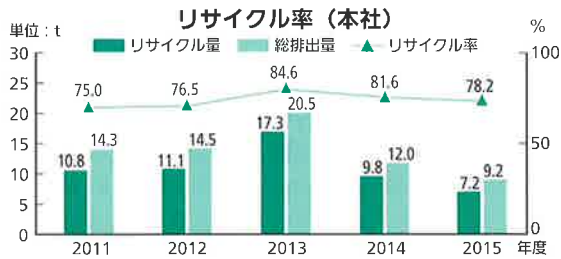
当社では事務所での環境活動として「グリーン購入率」「リサイクル率」「電気使用量」を継続的に集計し、結果の公表を行っています。



グリーン購入率 (全社)

2015年度のグリーン購入率は59%で、前年度比11ポイント上昇しました。グリーン購入の啓蒙が浸透してきた結果だと捉えております。大幅な購入率の上昇となりました。

昨年同様、部署別にグリーン購入率を比較すると部門によってはバラつきもあります。今後もグリーン購入の啓蒙活動を続け、更なるグリーン購入率の向上を図りたいと考えております。



リサイクル率 (本社)

左のグラフは本社から排出されたゴミのうち、資源化されたゴミの量と、総廃棄量との割合から算出したリサイクル率を表しています。2015年度のリサイクル率は78.2%と前年度比▲3ポイントとなりましたが、集計している5年間の中でも総廃棄量が最も少量であり、昨年同様「少ない廃棄量で、高いリサイクル率」という結果になりました。



電力使用量 (全社)

全社の電力使用量は、※2010年度比で3,627kWhの減(▲39.3%)となりました。5年連続で使用量が減少しており、オフィスでの節電への取組みは良好と考えます。

今後も社内での啓蒙活動と、外部からの節電・省エネなどに関する情報収集を行い更なる節電を実施していきます。

※政府の電力需要対策は2010年度実績を基準とし、横浜市の節電・省エネ対策基本方針も同様に基準を定めていることから、当社でも2010年の当社実績を基準とします。

川本工業 エコキャップ活動経過報告

NPO 法人エコキャップ推進協会を通じて、社員一丸となりペットボトルのキャップの回収を行っております。平成22年にキャップの回収を始め、累計50,405個のキャップを提供いたしました。

この活動はキャップの回収を通じて、リサイクルの促進、CO₂の削減、売却益での発展途上国の医療支援、障がい者・高齢者雇用促進に繋がっております。

環境負荷の低減に繋がるこの活動に引き続き取り組んでまいります。



環境活動の推進方法

環境保全活動は、「環境マネジメントシステム ISO14001:2004」に基づいて運用しています。

● 推進体制図



川本工業株式会社

〒231-0026 神奈川県横浜市中区寿町2-5-1
TEL: 045-662-2021 (代表)

URL: <http://www.kawamoto-ind.co.jp/> (川本工業では、ホームページで環境活動の報告を公開しています。)

発行年月: 2016年11月 報告対象期間: 2015年4月1日～2016年3月31日 (特に記載のある箇所を除く)

FSC® 森林認証紙、ノンVOCインキ (石油系溶剤0%) など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生するCO₂全てをカーボンオフセット (相殺) した「CO₂ゼロ印刷」で印刷しています。また、読みやすさに配慮した書体を使用しています。

